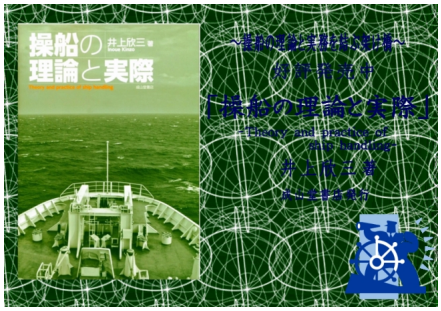

海事奨励賞を受賞しました　新刊紹介　　発刊にあたって　ー著者よりひとことー

このたび、成山堂書店より拙著「操船の理論と実際」を刊行することができました。操船論の教科書は、岩井操船論、本田操船通論がこの世界の双璧でした。岩井操船論、本田操船通論以来のおよそ４０年ぶりの本格的な操船教科書の出版ができたとよろこんでおります。先人が著された２冊の双璧の教科書の後継の書として、関係者のお役に立てば幸いです。

本書の内容

操船実務者、または、これから操船を理解しようとする人が、基本的に必要となる操船に関する科学的

執筆のねらい

本書は、釣り合いの力学に基づく解説をベースに運動力学への論理的展開を解説し、そして、データに

本書の特徴

「操船論」は水先人、船長、航海士など、実際に操船に携わる者にとって絶対に学ばなければならない

刊行記念写真
成山堂書店小川会長・編集スタッフとともに

成山堂書店 新刊案内

操船の理論と実際

神戸大学大学院海事科学研究科名誉教授
井上欣三 著
Inoue Kinzo

Theory and practice of ship handling

- 船舶の安全運航に必要な，操船の「理論」と「実際」を結び付け体系化。
- 操船に関する科学的知識を踏まえ，海上で「実際に船はどう動くのか」を実務的観点から詳細に解説。
- 近年の船型の多様化と大型化に対応した新時代の操船の教科書。
- 現場で有用な各種船舶の操船性能をデータベース化。操船シミュレーターでの研修にも役立つ。

B5 判・312 ページ・定価 4,620 円(税込)

著者略歴

井上欣三（いのうえ きんぞう）
1946年京都市に生まれる。現在，神戸大学大学院海事科学研究科名誉教授。1968年神戸商船大学航海学科卒業（商船学士）。その後，神戸商船大学大学院修士課程修了（商船学修士）。京都大学工学博士。学部卒業後，日本郵船株式会社入社，富山商船高等専門学校助教授を経て1981年に神戸商船大学助教授，1990年に神戸商船大学教授となる。1992年神戸商船大学附属練習船「深江丸」船長を務め，2000年神戸商船大学副学長，2004年神戸商船大学と神戸大学との統合により神戸大学海事科学部教授，神戸大学大学院自然科学研究科海事科学専攻長を併任，2005年神戸大学海事科学部長を経て，現在に至る。2002年に日本航海学会会長に就任，現在は名誉会員。英国王立航海学会アソシエイトフェロー。国内外の学会で優秀論文賞受賞8編。IAMU（国際海事大学連合，International Association of Maritime Universities）の活動コンセプトを提案し同組織の設立に貢献。その他幾多の国際研究プロジェクトを主宰。大連海事大学，上海海事大学の客員教授も務める。

本書の内容

第1編　序論
(I)操船と操船者
第1章　操船の定義と操船者に求められる知識・技術
第2章　操船の実際と操船者に要求される能力
第3章　操船者の社会的役割
(II)船体運動と浮揚安定性
第1章　船体運動の特徴
第2章　船の浮揚安定性

第2編　操船の原理
(I)舵による操船
第1章　舵
第2章　操舵
第3章　操舵に伴う船体運動
第4章　操縦性能試験
(II)主機・プロペラによる操船
第1章　主機
第2章　プロペラ
第3章　速力・惰力
(III)スラスター・タグによる操船
第1章　スラスターによる操船
第2章　タグによる操船
(IV)外力影響下での操船
第1章　風の影響

第2章　流れ
第3章　制限
第4章　波浪

第3編　操船の
(I)航行・着離岸
第1章　保針
第2章　変針
第3章　避航
第4章　着離
第5章　行き
第6章　緊急
(II)係留・錨泊
第1章　係留
第2章　錨泊

第4編　操船
(I)操縦性能
第1章　供試
第2章　操舵
(II)操船性能
第1章　供試
第2章　惰力
第3章　クラ
第4章　外力
第5章　港内

発送費について　直接当社宛にご注文いただいた場合の発送費は，お
が 5,000 円以上の場合は無料，5,000 円未満の場合は国内一律 39
個人のお客様のご注文は　代金引換による発送のみとなります。発送
が掛かりますことをご了承下さい。詳しくはホームページをご覧下さい

注文票

操船の理論と実際　定価4,620円(5%
ISBN978-4-425-47121-8 C3056 ¥4400E

ご住所・お名前・お電話番号
〒

本書を推薦します

（順不同・敬称略）

海技の理論・実技・意識を体系化する著作

日本水先人会連合会会長

小野 嘉久

水先人の業務体系にも、ISO品質管理手法が導入され、高品質かつ信頼性の高い水先業務の提供、顧客のニーズ把握、顧客の満足度の高揚が品質方針です。技術者と顧客を結ぶ視点から、海技者の技術一意識を体系的に示した著者の「海の安全管理学」に続き、理論と実務を結び付け体系化した本書が出版されることは、水先人・水先養成教育受講者等の海技者にとり待ち望んだ著作、教材です。

井上先生は、長年に亘り水先業界の学問的、技術的助言者であり、昨今の多様な船型と著しい大型化に対処する水先技術指針の導入は、先生のご指導の賜物と深謝しています。

操船論の意義

東京

操船論は造船学の分野で言えば船体運動学であ
動方程式は共通である。あえて違いを言えば、船
準等の関係上客観性を求めるのに対し、操船論は
海計画を完遂すべく、海技者がその生涯をかけて
う意識が強い。造船技術者がよい船を作ろうとす
意図を知る上で是非本書を参考にされるよう望む
一方、船の運用形態にも大きな変化がみられる
採り入れた船舶管理の定着は、個々の海技者の自
から「マニュアル化」へ変わりつつある。このよ
井上先生の「海の安全管理学」も併せて参照され

操船の構成要件を分かり易く解説

(社)日本船長協会会長

森本 靖之

船長として冬場のベーリング海を横断したとき、波高10m以上の波に翻弄され45度の傾斜を経験した。船橋から海が真下に、船体が横の方に見えたときは、さすがに体の硬直を覚えたが、出航前にしっかりとGM計算をして復元力を把握していたので割と冷静に対応できたと思う。本書は、操船に影響する要件を分かり易く仕分け、操船者として踏まえるべき要点を親切に整理している。

ECDISやAISなど、一昔前の人間には夢のような航海計器が誕生した現代でも、操船に必要な判断は、船体運動の法則を知った操船者のみが行い得ることは、今も昔もそして将来ともに変わらない。

操船環境に応じた船の性能と特

神戸商船

操船者は船の運動を制御する［技術の担い手］
きさ、喫水、水域の水深、広狭により船の反応
このため操船の目的に応じた始動の手順に、多
船の動きに限りのある操船情報をどこまで即決し
な操船の行動に移していけるかどうか。

本書は、さらに的確高度なコントロールを［操
の性能と特性について］詳述したものであり、海
活用を促すものとして推薦したい。

[illegible]

[illegible]

海の[illegible]

井上[illegible]

[illegible]

[illegible]